



# ICP導入推進戰略

經濟部國際貿易局  
2018年11月20日



# 概要

- ICP導入推進の理由
- ICP認証取得数
- メーカーが当初ICP整備に消極的だった原因を検討
- 対応策
- 導入推進の成果

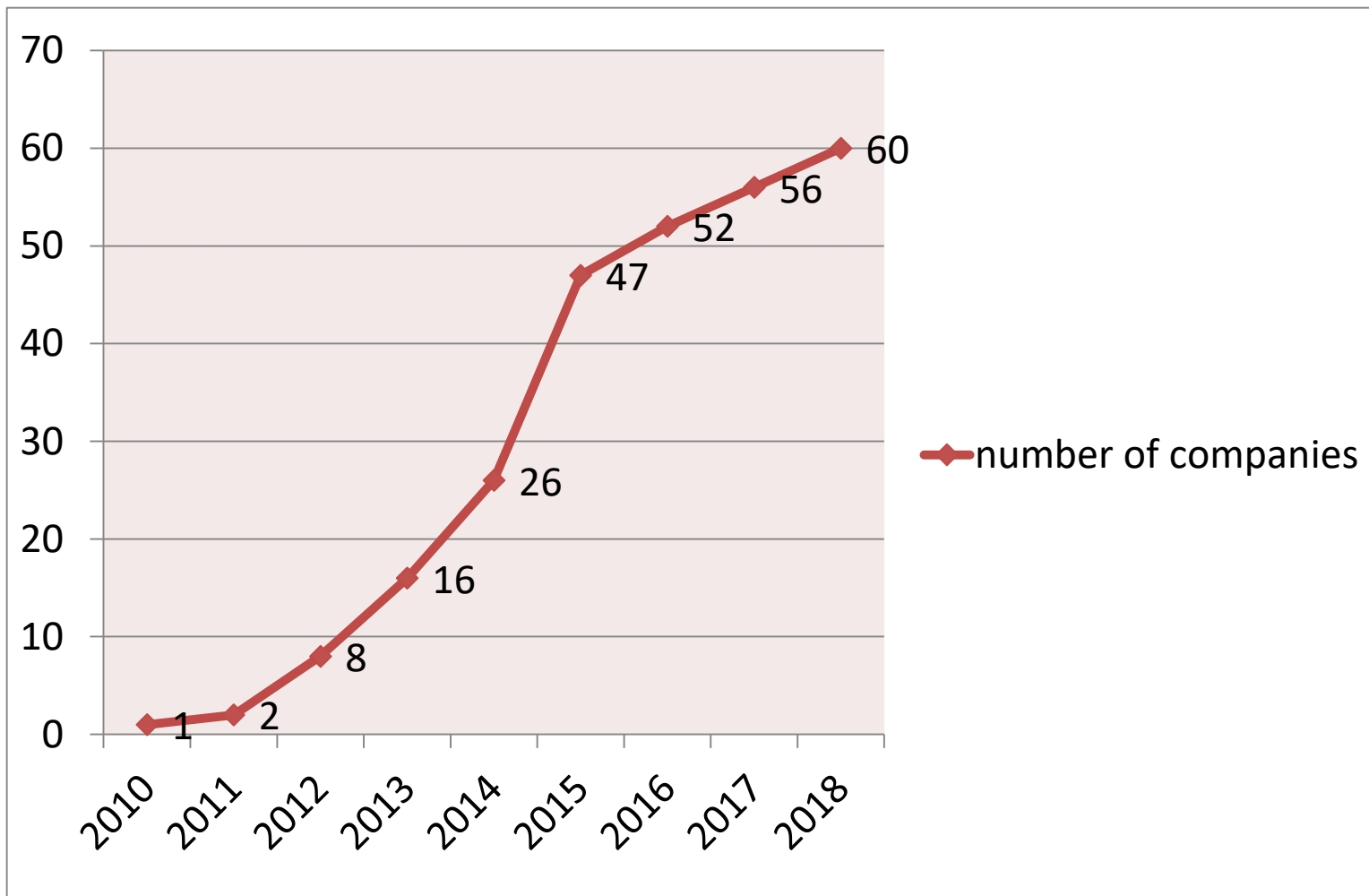


# ICP導入推進の理由

戦略的ハイテク製品の輸出管理の成否は、企業が関連法令を遵守できるか否か、そして如何に企業をリードして軌道に乗せさせ台湾の関連規定を実行させるか、がキーとなる。この理念の下、2009年8月に企業輸出管理内部規程（ICP）の導入推進をスタートさせた。



# ICP 認証取得数 (1/2)



# ICP認証取得数 (2/2)

年	メーカー名	社数	累計社数
2010年	テキサス・インスツルメンツ	1	1
2011年	台湾ミットヨ	1	2
2012年	TSMC、UMC、台湾アプライド・マテリアルズ、台湾アプライド・マテリアルズ台南支社、シンガポールアプライド・マテリアルズ、アーデンテック	6	8
2013年	メディアテック、メディアテック台北支社、インテル、米インテル、KYEC、クアルコム台湾支社3社	8	16
2014年	Sigurd、エリコン、NXPセミコンダクターズ、ASML、シンガポールアヴネット台湾支社2社、アロー・エレクトロニクス、奇普仕(Ultra Source)、和康(MACOM Technology Solutions)、KYEC(銅鑼工場)	10	26
2015年	WTマイクロエレクトロニクスグループ等4社、ASE、福雷(ASE TEST)、WPGグループ等15社	21	47
2016年	遠智(ARTLINK TECHNOLOGY)、SPILおよび同支社の3社、シリアル・マイクロエレクトロニクス	5	52
2017年	香港ラムリサーチ、台湾ルネサスエレクトロニクス、ASML香港、山九昭安物流	4	56
2018年	創発情報(ECONET)、宣昶(MAXTEK TECHNOLOGY)、鴻沛(HONGTECH ELECTRONICS)、聚興(ATM ELECTRONIC)	4	60



# メーカーが当初ICP整備に 消極的だった原因を検討

- ICPについて理解できていなかった
- ICP認証取得への動機づけが弱かった
- ICP整備に困難があった
- 企業界にICP整備のムードがなかった



# 対応策

- 企業のICP理解への協力
- メーカーのICPに対する認識向上のため、ICP導入啓発セミナーを開催
- 世界の主な輸出管理実施国と会議・相互訪問・シンポジウムを実施、国際会議に出席
- ICP優遇措置を制定
- メーカーが最小のコストでICPを導入できるよう、情報通信技術をサポート
- メーカーのICP整備へのムードづくり
- ICP業者のICP交流会企画に協力



# 導入推進の成果

- 改善措置を策定後、2012年をICP導入拡大啓発年と定め、ハイテク業者の企業輸出管理内部規程整備を積極的にサポート。
- その後、ICP認定取得メーカー数は安定して伸び、2018年10月末現在、計60社がICP認証を取得。





報告は以上です  
よろしくお願ひします